

研究課題：骨生検の重要性 CRMO と他疾患の鑑別 -後ろ向き比較研究-

1. 研究の目的

慢性再発性多発性骨髄炎（CRMO）は1972年に Giedion がはじめて報告した、主に小児および青年に発症する炎症性骨疾患です。本邦では診断基準として、1)単純レントゲンで骨融解と骨硬化の混在像を呈し、かつMRIでT1 low T2 high の骨髄浮腫所見を認める、2)病変部位の骨、骨髄生検で非特異的炎症像があり、培養もしくはPCRで細菌、真菌などの感染症が否定される、3)他の自己免疫疾患、自己炎症疾患、悪性腫瘍などの関節炎、骨髄炎の原因となる他疾患を除外する、以上3項目すべて満たした場合CRMOと診断されるとしています。しかし海外では容易に診断ができるような様々な診断基準が報告されています。またその中には不必要な骨生検を減らすために生検を行わずに診断する診断基準も含まれています。臨床所見や画像所見でCRMOが疑われる疾患で病理で特徴的な病理所見がみられる割合はいまだ不透明ですが、生検を行わずにほかの疾患、特に悪性腫瘍である可能性はあり、骨生検は必須の検査と考えています。本研究の目的は診断基準からCRMOと診断され骨生検を行い、特徴的病理所見が得られる割合と他疾患の頻度に関して検討することです。

2. 研究の方法

2010年1月1日から2022年8月31日までに当院を受診し、CRMOを疑い骨生検された患者様が対象となります。

3. 研究期間

2022年9月(倫理委員会で承認を得られた日)から2025年1月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、臨床、画像、病理所見などの情報を調べまとめます。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：整形外科 科長 平良 勝章

研究分担者：整形外科 医長 町田 真理

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年3月31日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）